

## 「旧約聖書を今日的に読む」

『混沌への光—現代に語り掛ける旧約聖書』左近 <sup>きよし</sup> 淑

「旧約聖書を崩壊期の思想として、同じように激動と破局の時の間を生きる現代人として読む、・・・

旧約聖書は、全体として崩壊期の思想である。崩壊の時代〈の中で〉、真正面からそれ〈を〉取り上げ、それ〈について〉神学的に考え、時代を生き抜いて来たのが旧約聖書である、・・・だからこれほどに身近にそして深く現代に向かって語っているものはない・・・。

\*\*\*\*\*

### 旧約聖書の成立

**第Ⅰ期・紀元前 11-10 世紀** (イスラエル部族連合体制が崩壊し、カナン的・オリエント的王制へ移行した時期)

(文献)

- 1 歴史記述 (イ) ダビデ王位継承史 (サムエル記下 9-20 章 ; 列王記上 1-2 章)  
(ロ) ヤハウィスト (創世記—出エジプト記—民数記に散在)。

**第Ⅱ期・紀元前 8 世紀** (アッシリア侵略による北王国イスラエルの滅亡期)

(文献)

- 1 歴史記述 エロヒスト (創世記—出エジプト記—民数記に散在)。
- 2 預言書 (イ) アモス書 (ロ) ホセア書 (ハ) イザヤ書 1-39 章  
(ニ) ミカ書。

**第Ⅲ期・紀元前 6 世紀** (バビロニア侵略による南王国ユダ滅亡—捕囚期)

(文献)

- 1 歴史記述 (イ) 申命記的歴史 (申命記 1-3:31-34 章—ヨシュア記—士師記  
サムエル記上・下一列王記上・下)  
(ロ) 祭司文書 (創世記—出エジプト記—レビ記—民数記に散在)
- 2 預言書 (イ) ゼパニア書 (ロ) ナホム書 (ハ) ハバクク書 (これら 3 書

は紀元前7世紀末の作といわれるが、問題意識としてはこの期)

(ニ) エレミヤ書 (ホ) エゼキエル書 (ヘ) オバデヤ書

(ト) イザヤ書 40-55 章 (チ) イザヤ書 56-66 章 (リ) ハガイ書

(ヌ) ゼカリア書 1-8 章。

3 文学 (イ) 哀歌 (ロ) ヨブ記 その他。

この表が示しているのは、旧約聖書の成立自体がイスラエル史における三度にわたる大規模な民族的体制崩壊に集中しているという明瞭な事実であり、旧約聖書の大部分が民族的規模での崩壊経験との深い関わりの中で生み出されたとう興味深い事柄である。

三度の大変動は、イスラエルの民族にとって経済的・社会的・政治的・文化的・歴史的に重大な経験であったにちがいない。しかし、その歴史的・社会的出来事は、イスラエルの信仰者にとって深く神学的な問題であった。

・・・しかしこうした根底から揺らぐような危機の中で旧約聖書を残した人々は現実から逃避せず、それを直視し、破れを身に経験しながら、そのなかに現にいまし、働きたもう方を新しい驚きと感動をもって語り、そのより頼んだのである。

・・・時間の隔たりを超えて、旧約聖書が現代の苦悩にふれて語ってくれるのは、いな語るだけでなく希望の光を与えてくれるのはこのゆえであると言えよう。

現代人としてのわれわれの苦悩は何よりも歴史的な苦悩である。歴史の苦しみに心底からこたえてくるのは、歴史の苦しみの炉で錬りきよめられた思想であらう。旧約聖書とはそうした文書なのである。(12-16 頁参照)